

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館10階



第125版

理念と実践で
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤクルーブログも
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで
f 神家絵本家 聴福庵



子どもたちのみならず、地域の人々にとってのかけがえのない「居場所」となっています。

人々に、モノに、 地球に喜ばれる

つい最近までは何でも新品のものを買うことが当たり前だった時代ですが、そんな消費社会から学び、時代は「シェアリング」や「循環」をする思想へと変わってきているようです。

新しいものが「良い」ということもありますが、大事にされてきたものが「良い」ということもあり、地球にとって良いことが「良い」ということもあります。物を買う時の考え方が、少しずつ変わってきているように感じます。

そして、ヤッポーハウスでは「体験」もシェアリングできるワークショップが開かれています。「バナナ酢作り」が出来るワークショップでは、体験したい地域の方や保護者に参加し、自宅でもバナナ酢を作れる人が増えてきていたり、バナナ酢を飲み続けたおかげで身体の不調が緩和されたりといった声が増えてきて



バナナ酢にスイーツやお花まで！
素敵なおもてなしを頂きました！



ヤッポーハウスでのメニューです。行きたいっ！！

いるそうです。

この「バナナ酢作り」には先代の園長先生が作り始めた奥深いエピソードと想いが込められており、「健康な暮らし」だけでなく、「園の歴史や想い」までもが「体験Ⅱシェアリング」できる味わい深いワークショップとなっています。

地域の人々と、どんな社会を子どもたちのために作っていきたいかと考えたとき、やまびこ保育園様が実践されているような「シェアリング」の思想は、一つの大切な考え方のように思います。

人に、モノに、地球に喜ばれる。そんな良い循環を生み出せるような生き方や働き方をカグヤも追求していきたいと思っています。

対話の環境づくり

「第15回見守る保育リーダー研修」を東京日本橋で開催しました。

普段のセミナーの懇親会では、都道府県ごとにグループを作って親睦を深めて頂く時間としていますが、今回はリーダーの先生方が集まる研修だからこそ、参加者がより主体性を発揮できる環境が用意できないかと事務局で話し合いを重ねました。「初日のグループディスカッションを行ったメンバーのまま懇親会の会場に移動して、そのまま親睦を深めてもらったらどうだろうか!」「懇親会の途中

で、セミナー2日目のディスカッショングループに席替えしたらどう?」というアイデアを実際に行ってみると、これまでのビュッフェの料理も自分の好きなものを個別に取り分けていましたが、今回はグループみんなの分を盛ったお皿を囲んで談笑する姿が多く見られ、翌日のグループディスカッションでも前日の流れのままスムーズに議題に入っているように見えました。セミナー内でも「参画」がキーワードに挙がっていましたが、先生方と作り上げていく懇親会となりました。



昔から知っている友人同士のように会話が盛り上がっていました！

カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

想いの伝承



祖父から孫へ、その想いは受け継がれ・・・

「むかしの田んぼ」をお借りしている藤崎農場の藤崎さんが、ちょうど80歳を迎えるということで、収穫祭では、皆で傘寿祝いも行いました。

今年は、新天皇の即位に伴う「大嘗祭」が行われた翌日に、私たちも収穫祭を行うことにしました。さらに藤崎農場さんでも代替わりするということで、後継者となるお孫さんへの激励セレモニーも行うことに！ふたりには即興で、漫画『ONE PIECE』のワンシーンをなぞら

クリスマスカード

毎年、年末のご挨拶として皆様のもとへお送りしているクリスマスカードには、社名の由来にもなっているかぐや姫が描かれています。今年も「カグヤ姫バンドのクリスマスコンサート」と題して、カグヤ姫が子どもたちや大人たち、様々な方々と一緒になって演奏を楽しんでいる様子が描かれています。

これはカグヤの仲間として、長年お付き合いのあるミッシェンパートナーさんや、パートナー園の元園長先生、一円対話を実践されてきた学園の卒業生がインターンに来てくれ

え、傘寿祝いに贈った麦わら帽子をお孫さんにかぶせてもらうという小芝居をリクエスト。そんなおふざけにお孫さんは「じいちゃんを超える米づくりをするぞ！農業王になるぞ！」と力いっぱい声で宣言。藤崎さんも「頑張れ！」とそれに返します。色々な想いが混ざり合い、辺りは笑い拍手に包まれ、感動に胸が熱くなりました。

「おいしいお米を皆に届けたい」という信念を持ち続け、長い年月と人生を懸けお米を作り続けてきた祖父の姿に「かっこいい」と憧れ、その想いを受け継ぐことを決めたお孫さん。そこにしっかりと「想い」が伝承されていることを強く感じました。



皆からの「おめでとう」に満面の笑みの藤崎さん



今年も神崎神社の宮司様に祈祷して頂きました！

たり、その他にも様々な先生が園と会社の垣根を越えて一緒に協力して下さることが多くなり、そんなカグヤの現状を表したイラストになっています。今頃ちょうどお手元に届いていらっしゃる方も多いと思いますので、ぜひ裏面のイラストを味わってみてください。



カグヤ姫と一緒にいる演奏者たちは、実はカグヤクルーをモデルにしています♪

一期一会庵

当たり前を見直す

鹿児島から長年一緒に子ども主体の保育に取り組んでこられた方々がカグヤで古民家塾生をした暮らしの場、「聴福庵」に来庵されました。

長い間、体調を崩されていた園長先生の快気祝いも兼ねての来庵でしたが、自然農での畑での作業や、炭団炬燵でのゆったりしたお茶の時間、夜は炭料理の数々とともに楽しみました。

感覚が鋭い方は、聴福庵に来庵されるとすぐにその空気の澄んだ感じや雰囲気を感じられます。今回も来てすぐに玄関で感動の涙を流され、手を合わせておられました。また地下水の汲みたてのお水が美味しいこともあり、何度も何度もお水を飲んで癒やされておられました。

今では当たり前になった水も、むかしは井戸から汲んで水甕に入れてそれを一日使っていました。それに火も、薪を山林からとってきたり、わざわざ炭をつくってそれを少しづつ活用しながら大事にして暮らしていました。何でも便利になりましたが、時代

が変われば当たり前は変わるものです。むかし当たり前だったことは、今では大変珍しくなっています。

私が会社で取り組んでいる、「暮らしフルネス」の生活はむかしの当たり前の善いところはそのままに、現代の当たり前のよくないところを改善して今を温故知新しています。

当たり前を見直していくということは、今を見直していくことです。

懐かしい日々の暮らしは、心の豊かさや充実さ、そしてゆとりややさしさ、思いやりや連綿と続いている徳の存在を思い出させてくれます。

まさに保育の道は、日々の暮らしによって行われていますから暮らしそのものを見直さなければ質の高い保育を磨いていくことはできないと私は確信しています。

子どもの仕事をするからこそ、当たり前を見直していききたいと思えます。



編集後記



サンタさんは大忙しの時季ですね！

記事にもありますように、今年もクリスマスカードをお客様のもとへお届けする季節となりました。園では大きなクリスマスツリーが用意されたり、サンタさんがやってきたりするのでしょね。子どもたちの嬉しそうな顔が目につきます。カグヤでも皆で協力して社内の飾り付けをするのが恒例となっており、大きな飾りはありま

せんが、さり気なくクリスマス気分を味わっています。今年もたくさんのご縁に恵まれ、一年を通して竹取新聞を発刊し続けることができました。本当にありがとうございます。来年も読みやすい新聞をお届けできるよう、改良し続けていきたいと思えます。皆様どうぞ良いお年をお迎えください。（眞田由莉）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます